

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ	
-----	--

【事故発生後の取り組みについて】

・・・・・・・・・・・・・・・・

○注意力欠如、焦り等の対策について

どんな状況下においても訓練時や災害活動中等は注意力、そして集中力等を決して怠ることなく、刻々と変化する災害現場状況に対して臨機応変に対応しなければならない。そのことを個人としても、部隊としても常に肝に銘じ、改めて各訓練や活動に従事していくようにしました。

○装備・資機材の対策について

災害を軽減、そして終息させるツールとして様々な資機材を保有し、用途に応じて適切な資機材を選定して活用しています。平素から個人や部隊、そして署間の訓練等においても資機材の諸元性能の熟知はもちろんのこと、使用方法を熟練させて、当該資機材の性能を最大限発揮させ、より有効な災害現場活動が安全に実施できるよ

○活動環境の対策について

昨今の複雑多様化する災害現場での各活動において、様々な危険が至る所に潜んでいます。災害活動中に自分自身で推測して注意すると共に、隊員間や部隊間等においても声を掛け合いながら危険を回避するよう安全管理に対しては更に徹底していくようにしています。

○指揮・情報伝達の対策について

組織(部隊等)で活動する私達は、災害現場で正確な情報の下、的確な指揮命令を受け、組織的に活動して災害から市民を守り続けています。知り得た情報は活動全隊員で共有し、指揮命令に役立て、早期の被害軽減に向って、今まで以上に最善を尽くして行きます。